「エッ！ワクチンが届かないの？」
「命」優先へ、政治を変えよう

日本共産党



新型コロナウイルス対策として15回目となる要請を行う日本共産党市議団（6月9日）。
左から、小田桐たかし、高橋あきら、植田和子、いぬい紳一郎各市議

「７月末までに高齢者、11月までに全国民の接種完了」…菅首相の発言を受けたワクチン接種は、７月初頭にとん挫。ワクチンが届かない事態に。さらに緊急事態宣言も４回目発出と、政府の失政・破綻は明らかです。「命」優先の政治へ、力を集め、政治を変えましょう。

日本共産党は、以下の実現に引き続き全力を尽くします。

①ワクチンは安定供給と安全・迅速な接種の加速化。
②積極的・大規模検査を実施し、陽性者の早期保護。
③持続化給付金や家賃支援、医療機関への減収補填など補償拡充。

五輪 感染リスクはさけられない

日本共産党は「五輪・パラリンピックの今年夏開催は中止を」と今年１月から提起。いっぽう緊急事態宣言下でも、五輪開催に固執する菅政権に、広がる国民世論と専門家の提言が「無観客」を決断させました。

五輪ファミリーや報道陣等、数万人規模の来日により、人を介して感染が拡大するリスクは避けられません。コロナ封じ込めに全力集中する政治をご一緒に作りましょう。

保健・医療体制の拡充いまこそ

千葉県37市中 流山市の順位	
医療施設数（人口1万人あたり）	31位
病床数（人口千人あたり）	35位
医師数（人口千人あたり）	28位
看護師数（人口1万人あたり）	25位

「人口増加率が全国792市で４年連続１位」を誇る流山市。いっぽう医療・保健体制はぜい弱です。保健分野では、市内を管轄する松戸保健所は人手不足が表面化し、感染症対策で追われる市保健センターの残業は、昨年度３千時間を超え、一昨年の約12倍にも。

日本共産党は保健所の新増設を提案。医療体制の量と質の向上については市長も必要性は否定しませんでした。

生理用品を全小中学校トイレに常設へ（2学期～）



奈良県大和郡山市の学校では2個セットの「昼用」「夜用」の生理用品と持ち帰り用の封筒までトイレに置かれています

多くの自治体で支援が広がっている「生理の貧困」。流山市でも思春期独特の感受性豊かな子ども達への支援として、「保健室に取りに行きづらいという心理的な配慮からも市内小中学校のトイレへ配備する」との答弁がありました。また、無償提供と引き換えに名前と利用個数を書かせるという千葉県教育委員会の方針についても「人権に配慮し、市では一切考えていない」と市教育長が明言。画期的です。

また、生活困窮者自立支援事業所での生理用品の配布も４月からスタート。日本共産党は「配慮ある配布方法と配布場所も１か所と言わず複数ヶ所で、人目を気にせず生理用品にアクセスできる支援体制を」と求め、「配布体制の改善、配布場所の拡大を検討する」との答弁をひきだしました。

日本共産党は、ジェンダー平等社会をつくることを綱領に明記し、性別や性的指向に関わらず個人を尊重し、能力を発揮できる社会の実現を目指します。

ジェンダー平等のさらなる前進へ
ご一緒に力をあつめよう

流山市加4-1688　TEL／FAX 04（7157）6140　メールアドレス　giindan@nagareyama-jcp.jp
ホームページ　http://www.nagareyama-jcp.jp/　流山市議会事務局　平和台1−1−1　TEL 04（7150）6099

ご意見・ご要望をお寄せください

声をあげよう 行動しよう
市民とつくる政治を


いぬい紳一郎


小田桐たかし


植田和子


高橋あきら


海岸にうちあげられたプラスチックごみ

環境 「地球の危機、守るのは私たち」

甚大な被害を全国で拡大させる豪雨。気候変動・地球環境の悪化が原因です。流山市でも47公共施設で再生可能エネルギー100％の電力調達など取り組みが始まるいっぽう、大規模な森林伐採や開発も続いています。

様々な取り組みを広げる市民の共通の思いは、「地球を守るのは私たち」というもの。日本共産党は、市民からの手紙や活動を紹介し、温暖化ガスゼロを本気でめざすよう提案しました。

市議会では政府に対し、再生可能エネルギー電力目標を2030年60％、50年100％とすることや石炭火力発電は段階的に2050年までの廃止を求める陳情書を全会一致で採択し、政府への意見書を可決しました。

指定ごみ袋の強制 新法に逆行!?

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が今年6 月、国会で可決、来年4 月から施行されます。この新法は、プラスチックごみを削減し、製造から販売、使用後の各段階でプラ素材の使用抑制やリサイクルの強化を求めています。

にもかかわらず流山市では、プラスチック製の市独自指定ごみ袋を民間事業者へ新たに大量製造させ、市民に購入・使用を強制させる（今年10月から試行、来年４月義務化を予定）…新法に逆行しています。

すでに市場に出回り、各家庭にストックされている「透明もしくは半透明」のごみ袋を利活用し、最小限の家庭ごみを捨てる…今の「流山方式」を変える理由はありません、指定ごみ袋の強制は延期・中止すべきです。

教育 「必要な先生がこない…」

教職員の未配置問題が深刻です。市内では、今年７月時点で19人も未配置に。「月を追う毎に、年度を重ねる毎に深刻化している」とし、「教職員の増員を県に要請する」と日本共産党の質問に市教委が答えました。

日本共産党も引き続き、一緒に声を広げます。

南流山中学校移転 「武道場・プール設置」を約束

東洋学園大学キャンパス跡地へR６年４月に移転・開設する南流山中学校。地域住民や保護者は「一方的な押し付け」と不満いっぱいです。日本共産党は、市当局に責任があることを認めさせつつ、移転先でさらにより良い教育環境の整備を提案。「武道場・プールを整備する」と市教委が議会で初めて言及しました。

通学路の安全はもとより、自転車通学を学校から１.４キロとすることや、駐輪場や観客席付きの体育館、旧大学図書館を南流山中学校の生徒や地域住民が優先利用できるなど解決すべき課題は残されています。ご一緒に声をあげましょう。

一緒に願い 実現させよう

補聴器購入へ助成を

今、加齢性難聴者のための補聴器購入費補助制度を導入する自治体が増えています。「補助制度は考えていない」とする流山市ですが、市内で加齢性難聴者が増えていることは当局も認めました。また、「補聴器の使用は有益」「補聴器の有用性について学び取れるよう取り組んでいきたい」との部長答弁もありました。

熱中症対策いそげ

熱中症による死亡者数のうち81％が高齢者（2015年）。いまや、エアコンは贅沢品ではなく酷暑から命を守る生活必需品です。エアコン購入費助成制度を創設し、命を守る取り組みが全国で広がっています。

流山市は昨年度、市民と日本共産党の要請を受け、生活保護利用者への購入費・設置費の助成を実施。さらに対象者を拡大させるよう日本共産党は提案しています。

身近な要求実現


道路に張り出した危険な枝を伐採（野々下４丁目）
高橋あきら


冠水対策　２ヶ年計画で実現へ（江戸川台福祉会館前）
植田和子


体育館スペース増築へ（八木北小学校）
小田桐たかし


公園側溝の壊れていたふたを補修（三輪野山）
いぬい紳一郎